

診療参加型臨床実習入門

[M3-60071S1]

1 ユニットの概要

医療チームの一員として学ぶ診療参加型臨床実習（clinical clerkship: CCS）は、医学教育で最も大切な実習の一つである。

CCSで学ぶためには、基本的な知識と技術・態度が備わっていることが必要である。

第1、2、3学年のすべてのユニットを合格した上で、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）により実施される共用試験1）知識を問うコンピュータによる試験（computer based testing、CBT）と2）診療参加型臨床実習前客観的臨床能力試験（pre-CC OSCE）に合格することで、CCSの参加資格を得ることができる。

CCS入門では、CBTとpre-CC OSCEに求められる知識と技術・態度を身に着ける。

2 金沢医科大学の学修成果（アウトカム）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 生涯学習
- ③ 医学知識と技術
- ④ 患者中心・チーム医療とコミュニケーション能力
- ⑤ 地域医療・社会貢献・国際貢献
- ⑥ 科学的態度・探究心

3 ユニットの学修成果（アウトカム）

※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学の学修成果との関連を示す。

- ① CCS への参加に必要な態度を確実にとることができる（①）
- ② 以下のコンピテンシーを達成できる
 - a 医師に求められるプロフェッショナリズムを理解し説明できる（①）
 - b 医学生 of 社会的責任を理解し説明できる（①⑤）
 - c 自己学習ができ、学修成果を得ることができる（②）
 - d 基本的な医療面接、身体診察を实践できる（③④）
 - e 収集した情報から臨床問題解決のための考察ができる（③⑥）
 - f 主要な症候の発症機序、病態生理が理解できる（③）

- g 主要な症候を診断するための検査計画を考察でき、基本的検査手技が実践できる (③)
 - h 適切に診療録の記載を理解し説明できる (③)
 - i 自己肯定感の向上に取り組むことができる (①②③)
 - j グループメンバー、他の学生と協力して取り組むことができる (①②③)
- ③ CAT0 により実施される共用試験 CBT および pre-CC OSCE に合格する (③)

4 学 習 方 略

- ① モデル・コア・カリキュラムに準拠し、専門教員からの講義を受講する。
- ② 診療プロセス（主訴、病歴、身体診察、臨床推論、検査計画）に準じた問題解決と、主要症候の発症機序、病態生理について、講義・演習を受講する。
- ③ 医療面接、身体診察、基本的臨床手技などの実習を行う。
- ④ CBT に対応できる知識の修得状況を形成的に判断するために、小テストや CBT の模擬試験を受ける。
- ⑤ Pre-CC OSCE に対応できる技能・態度を形成的に評価する。
- ⑥ グループメンバー、他の学生と協力して、本ユニットの運営や学生の成績向上に貢献する。

5 評価

評価区分	評価項目	評価の対象	評価に関する付記
形成的評価	ユニット中に行う小テスト・CBT 模擬試験	知識	
	学習態度（遅刻・欠席、講義・実習の受講状況）	態度	
	OSCE 模擬試験	技能	
総括的評価	A) CCS への参加に必要な態度の有無 (ア) 講義・実習の受講態度 ● <u>実習の欠席は認めない</u> ● <u>実習では共用試験 pre-CC OSCE 受験時と同等の服装・身だしなみで臨むこととする</u> (イ) CBT 模擬試験の受験態度 ● 受験は必須である (ウ) 本ユニットの運営への貢献度および学生の成績向上への貢献度を加味することがある	態度	● 医師に求められるプロフェッショナリズムおよび医学生としての責任に反する行為があった場合には、共用試験の受験資格を失う場合がある。受験資格を失わない場合でも、次年度以降、「プロフェッショナリズムおよび医学生としての責任」についての継続的指導が行われる。
	B) 共用試験 CBT	知識	● <u>B (CBT) と C (OSCE) の最終成績の平均点を本ユニットの成績とする。</u> ● A の (エ) 「本ユニットの運営への貢献度および学生の成績向上への貢献度」の評価が高いと認められた場合には、加点する。
	C) 共用試験 pre-CC OSCE	技能・態度	

6 授業スケジュール

別に示す。

7 事前事後学修について

1、2、3 学年で学修した成果（ポートフォリオ・ノート等）を整理し復習する。

【自己学習（準備学習）に必要な時間】

1 時限あたり 予習：15 分、 復習：45 分

8 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

ユニットの途中で行う試験を含む形成的評価に関しては、授業中あるいは電子シラバスで、適宜フィードバックを行う。

9 教 育 担 当 者

ユニット責任者： 山田 和徳（医学教育学）

ユニット副責任者：堀 有行（医学教育学）

ユニット副責任者：尾崎 一晶（医学教育学）（併）

その他の担当教員：八木 邦公（医学教育学）

西川 正志（医学教育学）

授業（講義・実習）担当教員： 別に示す。

10 参 考 文 献

「医学教育モデル・コア・カリキュラム」

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

- 学修が終わったかチェックリストとして、1年間利用して下さい。

「共用試験ガイドブック 第21版（令和5年）」

<https://www.cato.or.jp/e-book/21/index.html#page=1>

- 一度必ず全体に目を通してください。

診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（2023年度～）

https://www.cato.or.jp/pdf/hyouka_1.pdf

pre-CC OSCE の評価項目が記載されています、確認してください。

医学系 CBT 問題サンプル

https://www.cato.or.jp/pdf/cbt_igaku2009.pdf

- どのような問題が出るか確認してください。

医学系 OSCE サンプル課題

https://www.cato.or.jp/cbt/medical-osce/o_sample.html

どのような課題が出るか確認してください。